

乳幼児期の精神衛生に関する研究

言語発達遅滞幼児の予後調査の結果について

池田由子 (国立精神衛生研究所)
河野洋二郎 (")
成田年重 (")
池田はつね (")
坪内佳世 (")
百井一郎 (安積保養園)
秋元敦子 (千葉県柏児童相談所)
鈴木正則 (")
中尾清崇 (")
竹下梨枝子 (")

はじめに

われわれは、昭和49年度に、東葛地区の3ヶ所の精神衛生相談機関(国立精神衛生研究所、国立国府台病院、千葉県柏児童相談所)を訪れた、2才~6才の松戸市在住幼児160名の実態を報告したが、その主訴のうち過半数を占めたのは、言語発達に関する問題であった。また、松戸保健所、柏保健所における3才児健診でも、もっとも多い訴えは、言語発達遅滞であった。

昭和50年度には、松戸市衛生部と協力して1才6ヶ月児の未熟児健診を約300名を対象として行ない報告したが、ここでも母親が言語発達の程度に強い関心を持っていることを見出した。

この東葛地区では、言語発達の問題を持つ幼児が、3才児、乳児、未熟児健診を通じて、あるいは、電話相談、家庭児童相談、保健、教育相談などを通じて発見された場合には、児童相談所において、医師、心理判定員、ソーシャルワーカー(時には言語治療相談員も加え)総合判定を行い、その結果、(1)母親に対し助言を行うもの、(2)定期的に観察、その発達の程度に応じ助言指導を行うもの、(3)いろいろの治療グループ(たとえば、言葉のおくれグループ、あるいは、人みしりグループなど)に入れ、継続指導するもの、の3種類の処置をとっている。

一般に幼児前期に、言語発達遅滞を訴える子ど

もの予後については、明らかでない面も多いので、今回は、初診以後満2年以上を経過した子どもたちの追跡調査を行なってみたので、その現況と発達経過を報告する。

対象と方法

今回の調査の対象となったのは、3才前後に言語発達遅滞を主訴として、保健所あるいは児童相談所と接触した、松戸市在住の幼児で、昭和51年現在5才11ヶ月から7才10ヶ月の年令のものである。

言語発達遅滞を訴えた当初に、明らかな精神発達遅滞、身体の器質的障害や聴力障害による言語発達障害を有したものの、また、自閉症と診断されたものは除いている。

該当者56名(男43名、女13名)のうち、移転その他消息不明のものが10名おり、そのうち25名(男19名、女6名)の現況がわかった。

25名中12名については、児童相談所に招致し、子どもと母親に対して、直接に面接、テスト、観察を行なった。

子どもに対する検査は、身体発育、運動機能、知能測定、ことばのテスト、遊戯行動、描画、津守式発達検査などで、これらを個人的、および集団の場面で検査した。

母親に対しては、個人面接、集団での話し合い

を行なったが、生育歴では、妊娠、出産時の状況乳児期の発育と疾患、乳児期から幼児期にかけての親子関係、家族、社会環境条件などに注意を払った。

また、田口による言語能力発達質問紙を基礎とし、それに身体運動発達、生活習慣の項目を加え、(1)身体運動発達、(2)生活習慣、(3)言語発達の基礎となる行動、(4)言語理解、(5)言語表現の5部から成る質問紙をつくり、1才段階より現在に至るまでの、それぞれの子どもの発達経過を検討した。

なお、56名中22名が児童相談所における治療グループに入っており、直接詳しく検査した12名の中では、9名が治療グループに入っていた。

結 果

現況のわかっている25名中、7名の親は、わが子がなお言語発達遅滞があると思っているが、18名は問題が解決したと思っている。

親になお遅滞があると思われる7名のうち、3名は実際に検査してみると言語発達は正常範囲内で親が心配しすぎていることがわかった。一方、親が正常と思っている18名のうち、1名は検査で遅滞があった。

25名中24名は、現在普通学級及び一般の幼稚園、保育園に通っているが、1名は特殊学級に在級している。

また、25名中5名は、小学校内の言語治療教室に通っているが、うち3名はその適応であるかどうか疑問が感じられた。

親が子どもの言葉について心配を始めたのは、もっとも早いもので1才3ヶ月と1才6ヶ月であるが、過半数は2才代に心配しはじめている。親が、子どもの言語が急速に進んだと感じているのは、3才の後半、多くは4才から5才にかけてであり、治療グループ参加、幼稚園、保育園への入園とほぼ前後していると答えたものが多い。

直接くわしく検査した12名のうち、8名は知能が正常(1Q92~120,平均105)であるが、4名は1Q75以下である。しかし、知能的に問題のない子どもでも、知能テストの課題のうち、文の記憶の問題は全員不合格である。文の理解、反対類推、事物の差異の問題もあまり合格率

はよくなかった。一般に言葉を多く使う問題への「諦め」的な態度が認められた。

ことばのテストでは、1Qの低い4名は、態度発達のおくれ、発音の異常その他の項目のマイナス点に該当するものが多い。1Qの正常な8名では吃音が1名いるほかは、これらの項目には該当しないが、彼らの述べる物語、説明を録音によって聴いてみると、その表現力が幼稚であった。現在の津守式発達質問紙の結果を見ると、1Qの低い4名では、平均運動85、探索68、社会66、生活習慣92、言語72、1Qの正常な8名では、平均、運動98、探索89、社会97、生活習慣103、言語98となっている。1Q正常のグループでも、探索の得点の低いことが目につく。

現在の身体発達、運動能力(トランポリン、平均台、すべり台、マット運動、鉄使用、紐結び、玉さし、模写)、描画(HTP)遊戯行動には特定の傾向は認められない。

出産時の状況を見ると、25名中4名に問題があり、うち2名は未熟児である。新生児期、乳児期に問題のあるものは8名で、内訳は、先天性心臓障害1名、熱性けいれん4名、斜頸2名などである。1Qの低い4名では、うち3名がこれらの問題を示している。

また、乳幼児期の親子関係については、主観的な評価になるが、母自身の内省と、判定員の評価により、(+),(±),(-)の3段階に分けてみると、(-)、つまり、親子関係が浅い、接触が少ないと判定されるものが約 $\frac{2}{3}$ を占めている。これは少数の例外を除いては、子ども自身がおとなしい、手のかからない、要求の少ない乳幼児であったということと関係があるかもしれないが、今後1才6ヶ月健診を行なう際、注意を払うべき点ではないかと思われる。また、近隣、知人との交際についても、半数以上が、殆ど交際がなかったと答えていることは、母親自身の閉鎖的な態度と関係するのではないかと思われる。

なお、現在子どもが成長し、問題が消失、軽減していても、母親自身の孤立感、緊張、不安を訴える者が何名かおり、母親の不安が子どもに吃音、情緒的不安を起している例も1例あった。また、少数ではあるが、子どもが以前言語面に問題があ

ったことに対して、きわめて防衛的になっている例もあり、新興住宅地で連帯感の乏しい地域に住み、競争的、功利的な風潮に流されやすい核家族の母親の精神衛生というものを考えさせられた。

なお、1Qに問題のない子ども8名の、身体運動発達、生活習慣、言語発達の基礎となる行動、言語理解、言語表現の各側面の発達経過を参考のため表にして示してみる。

これを見ると、彼らは身体運動発達や生活習慣面は、1才より現在に至るまで、特別の遅滞はないが、言語に関する3側面、とくに言語表現が2才から4才にかけておくれ、5才を過ぎると年齢相応に伸びてきていることがわかる。

表を省略したが、幼児後期に至り1Qに問題のある子どものグループの発達経過とは、著しい差異を示している。

今回の調査は少数例ではあるが、初診時のわれわれの予測とある程度一致していたので、これらの結果を整理して、幼児前期における言語発達遅滞児の診断、指導の指針の参考にしたいと考えている。すなわち、われわれの試みたような発達の各方面の経過を、1才6ヶ月児健診の際に観察することにより、言語発達のおくれが、特発性あるいは単純言語発達遅滞といわれるものか、知的遅滞によるものか、その予後がどうか、いかなる治療指導の方針をたてるべきか、などについて、大体の鑑別が出来るのではないかということである。

なお、今年度は東葛地区の虐待、遺棄児についても調査を行ない、福祉、保健、医学、法律面からいかに干渉、介入出来るか、各関係者と協議し、その発見、予防、治療対策を討論したが、紙数の関係で之は省略する。

1	身体運動発達	A (6:11)	B (5:11)	C (6:2)	D (6:3)	E (7:0)	F (6:10)	G (7:4)	H (6:7)	total (+:±:-)	備考
	首のすわり お座り ねがえり つかまり立ち 這い這いする 立って両手を上げる	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 8:0:0 8:0:0 8:0:0 8:0:0	
1才	つたい歩き 一人歩き 階段を這い昇る リズムに合わせ体を動かす イスからとび下りる かなりよく走る	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 7:0:1 5:1:2 5:1:2 7:1:0	
2才	両足でピョンピョンとぶ すべり台をすべる 三輪車をおす ひとりりで階段を昇りおりする 物にぶらさがる	-	±	+	+	+	+	+	+	6:0:2 7:1:0 8:0:0 7:1:0 6:1:1	
3才	ぶらんこに立ち乗りする 三輪車をこぐ よういんどんでかけ出す 階段を2・3段目からとび下りる 決勝点までかける	-	+	+	+	±	±	+	-	3:1:4 6:1:1 7:1:0 7:0:1 7:0:1	
4才	片足でけんけんする でんぐり返しをする スキップを正しくする	+	+	+	+	+	±	+	-	6:1:1 7:1:0 3:3:2	
5才	ぶらんこに立ち乗りして自分でこぐ ジャングルジムの上まで昇る 皆とそろっておゆうぎをする	-	±	±	+	+	+	+	+	5:2:1 8:0:0 7:0:1	
6才	補助つき自転車にのる ボールを10回位つく 低鉄棒で前回りをする	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 3:1:4	
7才	大波小波のなわとびをする 低鉄棒に足をかけてさかさまにぶらさがる 補助なしで自転車にのる	+	+	-	+	+	+	+	+		

(カッコ内は年令を示す)

2	生活習慣	A (6:11)	B (5:11)	C (6:2)	D (6:3)	E (7:0)	F (6:10)	G (7:4)	H (6:7)	total (+:±:-)	備考
	スプーンから飲む ビスクレットを持って食べる コップから上手にのむ 食卓をかき回す コップなど自分で持って飲む さじをもって食べようとする	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 8:0:0 6:2:0 7:1:0 8:0:0	
1才	ひとに食べさせて喜ぶ さじで上手に汁をのむ 自分の口もとをふく ストローで飲む 靴をぬぐ 物を片付けるのを手伝う	+	+	±	+	+	+	-	+	6:1:1 8:0:0 6:0:2 6:1:1 8:0:0 3:0:5	
2才	大根をまちがいなくおしえる おしこの前におしえる のみこまないでブクブクできる 衣服の脱着をしたがる はしを使って上手に食事をする	+	±	+	+	+	-	+	+	6:1:1 6:1:1 3:1:4 6:1:1 4:4:0	
3才	昼間のおもらしはしない 自分でペンツをとって用を足す 頭を洗っても泣かない たのむと食器を台所にはこぶ 歯をみがく	+	+	-	±	+	+	+	+	7:0:1 5:1:2 7:1:0 7:0:1 6:1:1	
4才	前のボタンを1人ではめる 顔を洗ってふく 大人の世話にならずに食べる 自分で大便の始末をする	+	-	+	±	+	+	+	+	7:0:1 6:1:1 7:1:0	
5才	入浴後、体をタオルでふく 上衣を1人で着る 注射されても泣かない	+	+	+	±	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 7:1:0	
6才	自分で洋服の脱着をし、大人の手をかりない 手ぬぐいをしぼる	+	+	+	-	+	+	+	+	7:0:1 8:0:0 5:2:1	
7才	ほうきで掃除をする 気がむくと脱いだ洋服をたたむ ほとんど自分で頭を洗う	+	+	+	±	+	+	+	+		

3	言語発達基礎をなす行動	A (6:11)	B (5:11)	C (6:2)	D (6:3)	E (7:0)	F (6:10)	G (7:4)	H (6:7)	total (+:-)	備考
1才	あやすと顔をみて笑う 母の顔をみわける ガラガラをふる 人見知りする 食べるのを見て欲しがる イナイイナイバアをする 家族が笑った動作を何度もする 自分からバイバイする 人に食わせて喜ぶ 母の掃除をみてまねする ストローで飲む 指さしをする	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 8:0:0 5:0:3 6:1:1 6:0:2	
2才	積木を2・3横に並べる 絵本のページをめくる 紙の線をまねてかく きょうだいに相手されてごっこあそびをする 動物生物の本を好む	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 7:0:1 4:1:3 2:0:6 6:1:1 6:0:2	
3才	積木で門、トンネルをつくる TVの主人公のまねをする 顔らしいものをかいて目口をつける 好きな友だちができる 砂場で型を抜いたり山をつくらうりする 人の絵を書かせると手足のある人をおかく かくれんぼができる	+	+	+	+	+	+	+	+	6:1:1 5:0:3 7:0:1 6:0:2 8:0:0	
4才	紙、ハサミ、のりを使って簡単なものをつくる ジャンケンの勝負が分る 時計をみて何時か興味をもつ 10までの数ならよく分る トランプのババヌキができる プラモデルの組立てができる 約束、ルールを守ってあそぶ 経験したことを絵にかく レコードを自分で操作してかけられる ふうせんやつるを自分で折る	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 7:0:1 7:1:0 7:0:1 6:0:2 8:0:0	

4	言語理解	A (6:11)	B (5:11)	C (6:2)	D (6:3)	E (7:0)	F (6:10)	G (7:4)	H (6:7)	total (+:土:-)	備考
	音のした方に首を回す 母の声をききわける 音の出るホモチャを喜ぶ イヤイヤ、シャンシャンの芸当をする 「パパは？」ときくとそちらをみる どんな時でもバイバイという手を振る	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 7:1:1 8:0:0 6:1:1 6:0:2 7:0:1	
1才	「ちょうだい」と言う、くれるがイヤイヤをする 「ワロンは？」ときくと指さす 目、耳、口などの部分に分る 簡単な言いつけをする 本を読んでもらおうと持ってくる 人形の目、口、手などの部分をきくと分る	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 7:1:0 6:0:2 6:1:1 6:1:1	
2才	上・中・下の1つに分る 赤・青など正しい色をさす 好きな話を何度もききたがる 「あした」「あとで」が分る 「終り」が分る	+	+	+	+	+	+	+	+	4:1:3 3:0:5 3:0:5 6:1:1 6:1:1	
3才	物語をまがらって話すと訂正する ことばの繰り返しのある話を好む 自分が男か女か分る 上中下部のうち2つ分る 聞いている話のとぎれと催促する さかな、野菜、果物など抽象名詞を理解する	-	+	+	+	+	+	+	+	3:1:4 3:0:5 5:2:1 7:0:1 5:0:3	
4才	「2つ」ということが分る 曜日がいるいろいろあることを知っている 10色位の色名分る わからぬ字があると大人にきく 数字を拾い読みする	+	+	+	+	+	+	+	+	6:0:2 7:0:1 6:0:2 6:1:1 7:1:0 8:0:0	
5才	左右が分る	+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0 8:0:0 8:0:0	
6才	自分の誕生日が分る 今日が何曜日かたいてい分る トランプの神経衰弱をする マンガの本を自分で理解してみる 新しいことばの意味をたずねる	+	+	+	+	+	+	+	+		
7才		+	+	+	+	+	+	+	+		

	音 語 表 現	A (6:11)	B (5:11)	C (6:2)	D (6:3)	E (7:0)	F (6:10)	G (7:4)	H (6:7)	total (+:±:-)	備 考
5		+	+	+	+	+	+	+	+	8:0:0	
6	話しかけると声を出す	+	+	+	+	+	+	+	+	7:1:0	
	1人でウクンウクンと喋っている	+	+	+	+	+	+	+	+	7:0:1	
1才	要求を声にしてしめす	-	-	-	-	+	+	+	+	5:0:3	
	マママといって食事の催促する	-	-	±	±	+	+	+	-	4:1:3	
6	物を投げつけて「ア-ア」という	+	+	+	+	+	+	+	-	7:0:1	
	話すようにメチャクチャことばでしゃべりかける	-	+	+	+	+	-	-	-	4:0:4	
2才	母に向かって「ママ」という	+	+	+	+	+	-	+	-	5:0:3	
	2・3の単語をいう	+	+	+	+	+	-	+	-	6:0:2	
5	四つ足のもののみなワンワン、ニャーニャという	-	-	+	-	-	-	-	-	1:0:7	
	自分のことを名で呼ぶ	-	-	+	-	-	-	-	-	1:0:7	
3才	二語文を言う	-	-	+	-	-	-	-	-	1:0:7	
	代名詞(ココ、アレ)を言う	-	-	+	-	-	-	-	-	1:0:7	
5	いちいち「ナア=?」ときく	-	-	+	-	-	-	-	-	0:0:8	
	三語文を言う	-	-	+	-	+	-	-	-	1:0:7	
3才	「もうひとつ」といって要求する	-	-	-	-	-	-	-	-	2:0:6	
	自分の姓と名を言う	-	-	+	-	-	-	+	-	2:0:6	
5	自分のことをボク、私という	-	-	+	-	-	-	+	-	4:1:3	
	電話ごっこで交互に話ができる	-	+	+	±	+	-	+	-	3:0:5	
4才	「きのう、今、あした」などのことばを用いる	-	+	+	±	+	-	+	-	7:0:1	
	5までとなえられる	+	+	+	±	+	+	+	-	5:1:2	
3	1つは童話をうたえる	+	+	+	±	+	-	+	-	2:2:4	
	本を何冊か暗記する	+	-	±	±	-	-	+	-	6:0:2	
5才	経験したことばを、他の子に話をする	+	+	+	+	+	-	+	+	3:2:3	
	発音をほとんどまがわがない	+	+	+	+	±	-	+	+	6:0:2	
6才	TVの話題を友だちとする	+	+	+	±	+	-	+	+	7:1:0	
	自分の名をひらがなで書く	+	+	+	±	+	+	+	+	8:0:0	
7才	しりとり遊びができる	±	+	+	±	+	-	+	+	6:1:1	
	ひらがなをほとんど読む	+	+	±	±	+	+	+	+	8:0:0	
3	電話をかけ、実際に役立つ会話をする	+	+	+	+	+	±	+	+	6:2:0	
	幼児語をほとんど使わない	+	+	+	+	+	+	+	+		
3	父母の年令に興味をもたずねる	+	+	+	+	+	+	+	+		
	日付を理解して正しくよむ	-	-	+	+	+	+	+	+		
3	時計の針を正しくよむ	±	+	+	+	+	+	+	+		

↓ 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用 ↓
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります

はじめに

われわれは、昭和 49 年度に、東葛地区の 3 ケ所の精神衛生相談機関(国立精神衛生研究所, 国立国府台病院, 千葉県柏児童相談所)を訪れた, 2 才~6 才の松戸市在住幼児 160 名の実態を報告したが, その主訴のうち過半数を占めたのは, 言語発達に関する問題であった。また, 松戸保健所, 柏保健所における 3 才児健診でも, もっとも多い訴えは, 言語発達遅滞であった。